

# NPヲ VタイとNPガ Vタイの格交替性について

鈴木 泉子

## 0. はじめに

タイは動詞の連用形に付加して願望を表す述語 (V タイ) を形成する (= (2))。

- (1) 私は USJ に行く
- (2) 私は USJ に行きたい (= 私は USJ に行くことを願望する)

その際、付加する動詞 (V) が他動詞であれば、本来ヲ格標示されるべきその動詞の目的語がガ格で標示されることがある (= (4))。当然、タイが結合しなければ、他動詞の目的語はガ格標示されない (= (6))。

- (3) 私はその本を読みたい
- (4) 私はその本が読みたい
- (5) 私はその本を読む
- (6) \*私はその本が読む

この、タイが付加する他動詞の目的語に対するヲ格とガ格の間の格標示のゆれについては、庵 (1995) がそれまでの先行研究を概観した上で詳細に分析している。

本論では、コーパスを用いて、「ヲ格目的語 + V タイ」と「ガ格目的語 + V タイ」の分布を分析し、庵 (1995) の指摘および分析の妥当性を検討する。なお、以下では、特に断りがない限り、V タイがヲ格標示された目的語を取り、ヲ格目的語と V タイが隣接する場合を「…ヲ V タイ」、ヲ格標示された目的語と V

タイの間に他の要素が介在する場合を「ヲ…V タイ」、V タイがガ格標示された目的語を取り、ガ格目的語と V タイが隣接する場合を「…ガ V タイ」、ガ格標示された目的語と V タイの間に他の要素が介在する場合を「ガ…V タイ」と表記する。

## 1. 先行研究：庵 (1995)

庵 (1995) は、まず先行研究を概観し、「ガ格目的語 + V タイ」の特徴として以下の 4 点を挙げている。

- (7) ガ格目的語と V タイの間に他の語句が介在するほどガ格目的語の許容度が下がる (柴谷 (1978))。
- (8) 「買う」と「売る」のような方向性を持つ動詞の場合、話者に近づく方向性を持つ動詞(「買う」)の方がガ格目的語を許容しやすい (大江 (1973))。
- (9) 「買う」と「購入する」のような対応する和語と漢語のペアにおいては、漢語の方がガ格目的語を許容しづらい (久野 (1973))。
- (10) V が「V テミル」「V サセル」「V ラレル」といった統語的複合形式を取るもの場合、統語的複合形式の間で許容度に差がある。

この点を検証するため、庵 (1995) は『芥川賞全集』(文藝春秋社, 1～15 巻, 12, 14 巻を除く) および「天声人語」(1985～1993.9) を資料として、「ガ格目的語 + V タイ」および「ヲ格目的語 + V タイ」の分布を分析している。庵 (1995) の分析結果は以下の通りである (表 1～3 はそれぞれ庵 (1995) の表 1～3 である)。

意味分野	ガ～シタイ		ヲ～シタイ	
	異なり	のべ	異なり	のべ
2.1 抽象的關係	1 ( 6)	1 ( 2)	131 (36.2)	205 (23.9)
2.3 精神及び行為	15 ( 88)	49 ( 96)	192 (53.0)	600 (70.0)
2.5 自然現象	1 ( 6)	1 ( 2)	8 ( 2.2)	11 ( 1.1)
その他単純形	0 ( 0)	0 ( 0)	31 ( 8.6)	43 ( 5.0)
(単純形合計)	17 (100)	51 (100)	362 (100)	859 (100)
複合形 (テ形, 使役, 受身)		1		427
合計		52		1286

表1 意味分野<sup>1</sup>毎のVタイの分布(( )内の数値は単純形全体に対する比率(%))

	意味分野	ガ	ヲ
する	2.34	10	69
食べる	2.33	10	7
言う	2.31	8	20
知る	2.306	6	23
飲む	2.33	5	1

表2 ～ガVタイで用いられる度数5以上の動詞

	意味分野	ヲ	ガ		意味分野	ヲ	ガ
テモラウ		132	0	言う	2.31	20	8
する	2.34	69	10	作る	2.38	20	0
テミル		65	1	テイク		19	0
テヤル		64	0	考える	2.306	18	0
サセル		43	0	送る	2.152	14	0
見る	2.309	41	2	テシマウ		14	0
テオク		38	0	避ける	2.35	13	1
聞く	2.309	27	1	テイル		11	0
テイタダク		27	0	見せる	2.309	10	0
知る		23	6				

表3 ～ヲVタイで用いられる度数10以上の動詞

この分析結果から分かることとして、以下の3点が挙げられている。

- (11) 「ヲ格目的語 + V タイ」に対して「ガ格目的語 + V タイ」が使用される意味分野が限定される。(精神および行為の意味分野以外ではほとんど用いられていない。)
- (12) タイが付加する動詞が複合形(テ形接続, 使役, 受身)の場合, 「ガ格目的語 + V タイ」にはほとんど使用されない。(1例のみ。)
- (13) 「ガ格目的語 + V タイ」に現れる漢語動詞は一例もない。

ここから, 庵(1995: 57)はVタイにおける無標の形式は「ヲ格目的語 + V タイ」であり, (14)から(16)の条件を満たす場合にヲ格名詞句がガ格に交替できるとしている。

(14) 語彙的制約

- a. 漢語動詞はガを取りにくい(cf. 久野(1973)の条件)。
- b. 「気をつける」のように「目的語」(この構文でガ/ヲによってマークされる名詞句「気」)と「動詞」(述語からタイを除いたもの。「つける」)の緊密性が高いとガは使いにくい。

(15) 統語的制約

- a. 複合形は単純形よりもガを許容しにくい。
- b. 目的語と述語の間に他の要素が介在するとガの許容度が低下する。<sup>2</sup>  
(柴谷(1978)の条件)

(16) 意味的制約

- a. 補文<sup>3</sup>のヲ格の意味役割が「対象」以外であるときはガは使いにくい。
- b. 「動詞」の他動性が高い時はガが使いにくい。

## 2. コーパスを用いた「…ヲVタイ」「ヲ…Vタイ」「…ガVタイ」「ガ…Vタイ」の分析

本論では、国立国語研究所と Lago 言語研究所の開発による NINJAL-LWP for BCCWJ を用いて、庵 (1995) の指摘を検証していく。方法としては、基本動詞ハンドブック<sup>4</sup>に挙げられている 95 語の内、ヲ格を取る単純形の動詞 71(53+17) 語について取り上げ、どのくらいの頻度で V タイ形で用いられるかを NINJAL-LWP for BCCWJ を用いて調べた。

### (17) 基本動詞ハンドブックに挙げられている動詞 95 語

合う、会う、上がる、上げる、あげる、当たる、当てる、ある、歩く、言う、行く、V ていく、いる、受かる、打つ、起きる、置く、V ておく、起こす、起こる、押す、思う、下りる、降りる、折る、折れる、返す、返る、かぶる、考える、聞く、聞こえる、決まる、決める、着る、切る、切れる、砕く、砕ける、来る、V てくる、くれる、壊す、壊れる、下がる、下げる、さわる、触る、知る、過ぎる、過ごす、進む、進める、する、出す、立てる、つく、付く、着く、衝く、作る、つける、付ける、着ける、漬ける、点ける、潰す、潰れる、出る、通る、飛ぶ、なる、抜く、脱ぐ、登る、履く、吐く、走る、張る・貼る、引く、ぶつかる、触れる、見える、見る、持つ、もらう、破る、破れる、やる、よぎる、分かる、渡る、割る、割れる

### (18) (17) のうち対象のヲ格名詞句 (ヲ格目的語) を取る動詞 53 語

上げる、あげる、当てる、言う、打つ、置く、起こす、押す、思う、折る、返す、被る、考える、聞く、決める、着る、切る、砕く、くれる、壊す、下げる、さわる、触る、知る、過ごす、進める、する、出す、立てる、付く、着く、衝く、作る、付ける、着ける、漬ける、点ける、潰す、抜く、脱ぐ、履く、吐く、はる、貼る・張る、引く、触れる、見る、持つ、もらう、破る、やる、分かる、割る

## (19) (17) のうち場所のヲ格名詞句を取る動詞 17 語

上がる, 歩く, 行く, 下りる, 降りる, 折れる, 来る, 下がる, 過ぎる, 進む,  
出る, 通る, 飛ぶ, 登る, 走る, よぎる, 渡る

頻度	V タイ (総数)	「対象」を伴 う V タイ	…ヲ V タイ	ヲ… V タイ	…ガ V タイ	ガ… V タイ
上げる	85	71	64(90.1%)	7(9.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)
あげる	161	96	90(93.8%)	6(6.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
当てる	31	14	11(78.6%)	3(21.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
言う	498	123	57(46.3%)	1(0.8%)	65(52.8%)	0(0.0%)
打つ	104	44	37(84.1%)	2(4.5%)	5(11.4%)	0(0.0%)
置く	100	62	53(85.5%)	8(12.9%)	1(1.6%)	0(0.0%)
起こす	51	40	40(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
押す	11	10	10(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
思う	187	3	1(33.3%)	2(66.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
折る	0	0	0	0	0	0
返す	48	27	20(74.1%)	7(25.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)
被る	3	0	0	0	0	0
考える	411	98	69(70.4%)	29(29.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
聞く	493	151	72(47.7%)	4(2.6%)	74(49.0%)	1(0.7%)
決める	86	19	17(89.5%)	2(10.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)
着る	138	57	41(71.9%)	6(10.5%)	10(17.5%)	0(0.0%)
切る	91	59	55(93.2%)	3(5.1%)	1(1.7%)	0(0.0%)
砕く	0	0	0	0	0	0
くれる	0	0	0	0	0	0
壊す	39	27	24(88.9%)	3(11.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
下げる	19	10	9(90.0%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
さわる	13	3	3(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
触る	55	8	8(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
知る	483	178	85(47.8%)	16(9.0%)	76(42.7%)	1(0.6%)
過ごす	179	83	52(62.7%)	31(37.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
進める	123	86	76(88.4%)	10(11.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
する	459	167	67(40.1%)	32(19.2%)	66(39.5%)	2(1.2%)
出す	359	252	219(86.9%)	32(12.7%)	1(0.4%)	0(0.0%)
立てる	31	22	22(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
付く	0	0	0	0	0	0

着く	14	0	0	0	0	0
衝く	1	1	1(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
作る	489	341	304(89.1%)	24(7.0%)	13(3.8%)	0(0.0%)
付ける	124	93	86(92.5%)	7(7.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)
着ける	7	5	0(0.0%)	5(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
漬ける	0	0	0	0	0	0
点ける	0	0	0	0	0	0
漬す	14	10	9(90.0%)	1(10.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
抜く	13	6	6(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
脱ぐ	21	6	6(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
履く	20	8	6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)	0(0.0%)
吐く	18	3	3(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
はる	1	1	1(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
貼る・張る	30	22	19(86.4%)	1(4.5%)	2(9.1%)	0(0.0%)
引く	34	30	27(90.0%)	2(6.7%)	1(3.3%)	0(0.0%)
触れる	93	2	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
見る	463	143	62(43.4%)	7(4.9%)	72(50.3%)	2(1.4%)
持つ	233	203	181(89.2%)	19(9.4%)	3(1.5%)	0(0.0%)
もらう	96	46	34(73.9%)	7(15.2%)	5(10.9%)	0(0.0%)
破る	14	10	8(80.0%)	2(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
やる	480	82	50(61.0%)	4(4.9%)	27(32.9%)	1(1.2%)
分かる	26	4	4(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
割る	4	4	1(25.0%)	2(50.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)

表4 対象のヲ格と名詞句を伴う動詞がVタイ形に現れる頻度

頻度	Vタイ (総数)	「場所」を伴 うVタイ	…ヲ Vタイ	ヲ… Vタイ	…ガ Vタイ	ガ… Vタイ
上がる	19	0	0	0	0	0
歩く	98	21	13(61.9%)	8(38.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
行く	500	1	1(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
下りる	2	0	0	0	0	0
降りる	22	2	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
折れる	1	0	0	0	0	0
来る	173	0	0	0	0	0
下がる	0	0	0	0	0	0
過ぎる	0	0	0	0	0	0

進む	85	2	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
出る	278	26	26(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
通る	16	2	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
飛ぶ	26	8	8(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
登る	22	0	0	0	0	0
走る	62	11	6(54.5%)	5(45.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)
よぎる	0	0	0	0	0	0
渡る	16	8	7(87.5%)	1(12.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)

表5 場所のヲ格名詞句を伴う動詞がVタイ形に現れる頻度

表4は対象のヲ格名詞句を取る動詞がVタイ形に現れる頻度を、NINJAL-LWP for BCCWJを用いて調べまとめたものであり、表5は場所のヲ格名詞句を取る動詞について同様にまとめたものである。各表において、「Vタイ(総数)」はNINJAL-LWP for BCCWJにて当該の動詞がVタイ形で用いられているデータの総数<sup>5</sup>を表し、「[対象] (ないし「場所」)を伴うVタイ」は「Vタイ(総数)」において、対象ないし場所の名詞句を伴ったデータの数を表している。

### 3. 庵(1995)の制約に対する考察

#### 3.1. 意味的制約(16a)について

先に述べた通り、庵(1995)ではVタイに現れる動詞の取るヲ格名詞句の意味役割が「対象」でなければ、Vタイにおいてヲ格がガ格に交替づらいことが指摘されている。この指摘に関しては、確かに今回の調査の結果、表4からは、対象のヲ格名詞句を取る動詞がVタイに現れる際にはガ格への交替が観察されたが、表5から、場所のヲ格名詞句を取る動詞がVタイに現れる際ガ格への交替を起こしたデータは一件も観察されなかった。

ただし、インターネットで「が歩きたい」で検索をしてヒットした183件中、場所のヲ格名詞句がガ格に交替していると考えられる例が4件見つかった。

(20) 関門海峡が歩きたい!<sup>6</sup>



(21) バージンロードが歩きたい<sup>7</sup>

(22) 安心して道路が歩きたい<sup>8</sup>

(23) 岩場が歩きたい<sup>9</sup>

従来、場所のヲ格名詞句を取る動詞は、対象のヲ格名詞句を取る動詞と異なり直接受動文を作れないことなどから、他動詞とは見なされず、場所のヲ格名詞句も目的語とは見なされてこなかった。しかし、鈴木(2015)では、場所のヲ格名詞句を取る動詞でも直接受動文を許す例が存在していることなどから、場所のヲ格名詞句を取る動詞は本質的に活動動詞と同じであり、場所も一種の対象であると論じている。従って、Vタイに現れる動詞の取る名詞句のヲ格が場所であれば一律にガ格への交替を許さないのではなく、場所のヲ格名詞句であっても「動作の対象」とであると認識されれば、ガ格への交替を許す可能性が存在する。

### 3.2. 意味的制約(16b)について

庵(1995)では、Vタイに現れる動詞の他動性が高いとガ格への交替が起こりづらいことが指摘されている。この点に関しては、今回調査の対象となった対象の名詞句を取る動詞53語中、対象の名詞句を伴ってVタイに現れているデータの存在する動詞が45語あったのに対して、Vタイにおいて対象の名詞句のガ格への交替が見られた動詞は「言う」「打つ」「置く」「聞く」「切る」「知る」「する」「出す」「作る」「履く」「貼る・張る」「引く」「見る」「持つ」「もらう」「やる」「割る」の17語であり、ここから、動詞によってガ格への交替を許す度合いが異なることが分かる。

また、これらの動詞の中でもガ格への交替を起こしやすい動詞と起こしにくい動詞が観察された。すなわち、「…ヲVタイ」および「ヲ…Vタイ」の頻度の総数と「…ガVタイ」および「ガ…Vタイ」の頻度の総数がほぼ同じか、あるいは後者の頻度の方が前者の頻度よりも多い動詞は、「言う」「聞く」「知る」「す

る」「見る」の5語に限られている。<sup>10</sup>

この点に関しては、庵(1995: 60)でも同様の観察がなされている。庵によれば、ガ格交替を起こす動詞は「食べる」「言う」「する」「飲む」「見る」「知る」「聞く」「切る」と限られていたことが指摘されている。これらの動詞には直接受動文(庵の「まどもの受身」)が作りにくいという特徴が見られることから、他動性の高い動詞はガ格への交替を起こしにくく、他動性が低くなるとガ格への交替が生じやすくなると庵は論じている。

しかし、インターネットで検索すると、(24)から(26)のような直接受動文の例は容易に見つけることができる。(実際、筆者にも(24)から(26)のような直接受動文は文法的であると思われる。)

(24) 真実が知られる

(25) 次のような意見が聞かれた

(26) 自分の悪口が言われているのではないか

従って、他動性の低さ、すなわち直接受動文の作りにくさがVタイにおける対象の名詞句のガ格への交替のしやすさに影響を与えていると結論づけることは早急であると考えられる。

### 3.3. 統語的制約(15b)について

庵(1995)によれば、目的語と述語の間に他の要素が介在するとガ格の許容度が低下し、これに抵触するとガ格への交替が容認されない。今回、目的語がガ格で現れる例は全部で507件見られたが、このうちガ…Vタイの例は7例見られた。

(27) 友達やみんなの言葉が沢山聞きたかった

(28) 最新情報が是非、知りたいのですが…

- (29) それはどうしたい？
- (30) じゃ、何が一番したい？
- (31) ポニョが早く見たい（笑）
- (32) 大塚愛の整形前の顔が超見たい！
- (33) ・ ・ ・ ステージ 14 が一番やりたくないです（涙）

これに対して、目的語がヲ格で現れる例は全部で 2375 件見られたが、そのうち…ヲ V タイの例は 2074 件、ヲ…V タイの例は 301 件見られた。また、ヲ格目的語と V タイの間に他の要素の介在を許すかどうかの許容度は動詞によって異なっており、ヲ…V タイの頻度が比較的高い（すなわち「目的語 + V タイ」の頻度の総数に占める割合が 10% 以上 30% 未満の）語は「当てる」「置く」「返す」「考える」「決める」「着る」「壊す」「下げる」「進める」「する」「出す」「潰す」「履く」「もらう」「破る」の 15 語、ヲ…V タイの頻度が非常に高い（すなわち 30% 以上の）語は「思う」「過ごす」「着ける」「割る」の 4 語のみであった。

また、ヲ格目的語と V タイの間に現れる要素の大半は、(1) 目的語からの遊離数量詞（「部下を何人も持ちたい」等）、(2) 間接目的語（割と大きい指輪を君にあげたい」等）、(3) 目的語を叙述する要素（「まちを良くしたい」等）、(4) 動詞修飾の副詞（「彼らをよく知りたい」等）、(5) 頻度の副詞（「どう面白くやるか」をつねに考えたい」等）に大別され、外項（主語）がヲ格目的語と V タイの間に介在する例は 3 例しか見受けられなかった。

それに対して、(27) から (33) の例に見られるように、ガ格目的語と V タイの間に介在する要素には遊離数量詞、目的語を叙述する要素、動詞修飾の副詞等が見られ、ヲ格目的語と V タイの間に介在する要素と比べても特に差は見られなかった。<sup>11</sup>

ただし、ガ格目的語を伴う V タイの例が 507 件見られたことを考慮すると、その中でガ格目的語と V タイの間に他の要素の介在を許す例の割合は 1.4% と極めて少なく、ヲ格名詞句と V タイの間に他の要素の介在を許す例の 1 割強

(11.0%)に留まっていることから、庵(1995)の統語的制約bは厳しすぎるが、傾向としては確かに対象のガ格名詞句とVタイの間に他の要素が介在する例は極めて少数しか存在しないことが確認された。

#### 4. まとめ

以上、NINJAL-LWP for BCCWJを用いて、Vタイ形における目的語のガ格交替に関する庵(1995)の考察を検証した。統語的制約(15b)(=目的語と述語の間に他の要素が介在するとガの許容度が低下する)については、今回検証した目的語を伴うVタイの例2883件中7件と極めて少ないことが確認された。ただし、Vタイにおいて目的語がガ格に交替する例自体が507件と少数ながら存在することから、庵(1995: 60)が述べるように、この制約に抵触するとガ…Vタイが許容されないと結論づけるのは早急であると考えられる。

また、庵は統語的制約(15b)に抵触していなくても意味的制約(16b)(=「動詞」の他動性が高い時はガが使いにくい)に抵触すれば…ガVタイが許容されないとして述べているが、これについても、…ガVタイを許容する傾向にある動詞の中に直接受動文を許すものが見られることから、他動性の低さがVタイにおける目的語のガ格への交替の許容のしやすさ/しにくさに影響を与えると結論づけるのは早急であると言える。

意味的制約(16b)(=Vタイの取るヲ格の意味役割が対象以外であるときはガは使いにくい)については、今回検証した限りでは対象以外のヲ格名詞句を取る動詞の中に…ガVタイもしくはガ…Vタイを許したものは見つけれなかった。ただし、インターネットの検索結果からは、「…が歩きたい」の例が複数ヒットしたこともあり、移動のヲ格名詞句を取る動詞の中にはVタイにおいてガ格への交替を許すものも存在すると言える。この点に関しては、移動のヲ格名詞句と対象のヲ格名詞句をどの程度意味的に共通にとらえられるか、さらに検討する必要がある。

なお、本論では、統語的制約(15a)(=複合形は単純形よりもガを許容しにく

い)および語彙的制約(14a)(14b)に関しては考察の対象外とした。今後の研究課題としたい。

## 〈注〉

<sup>1</sup> 意味分野は国立国語研究所(1964)によるものを使用している。

<sup>2</sup> (15b)の制約について、庵(1995)は、Shibatani(1975)の文認知上の知覚規則を用いて説明している。

文認知上の知覚規則：ガ格名詞句が現れたところから文が始まると知覚され、テンスを伴う動詞が現れるとその文が終わったと知覚される。そのため、ガ格名詞句の後に別のガ格名詞句が続くと、一旦、従属節の主語であると解釈される。その後すぐに述語が現れば2番目のガ格名詞句を目的語と解釈しなおすことは容易だが、2番目のガ格名詞句と述語の距離が離れば離れるほど再分析がしづらくなる。

(i) a. X NP ガ Y → X [<sub>S</sub> NP ガ Y

b. V-Tn X → V-Tn]<sub>S</sub> X (Tn: テンス)

<sup>3</sup> 庵(1995)ではVタイに対して補文構造が仮定されているが、本論ではVタイの内部構造については踏み込まない。

<sup>4</sup> <http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>

<sup>5</sup> Excelデータでダウンロードできるデータの上限が500件のため、サイト上では500件以上ヒットしていても、本論では一律500件としている。

<sup>6</sup> <http://www.proceed-co.jp/touring/kanmonkaikyo/kanmonkaikyo.htm>

<sup>7</sup> <https://gensenwedding.jp/article/8470>

<sup>8</sup> <http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/kenkou/kenkou21/machi10.htm>

<sup>9</sup> <https://www.kojitusanso.jp/tozan-report/detail/?fm=18266>

<sup>10</sup> 「割る」に関しては、「…を割りたい」と「…が割りたい」の例が同数存在し

たが、そもそも目的語を伴う「割りたい」の例の総数が4例と少数であることから、ここでは考察の対象外とする。

<sup>11</sup> 全体の例が少数なため、間接目的語および頻度の副詞の例が見つけられなかった。これらの要素がガ格名詞句とVタイの間に介在できるか否かについては、さらに調査をする必要がある。

## 参考文献

- 庵功雄 (1995) 「ガ～シタイとヲ～シタイ 一直接目的語の格標示のゆれ一」 宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法(上)短文編』, pp. 53-61, くろしお出版.
- 大江三郎 (1973) 「願望のタイの前でのヲとガの交替」 『文学研究』 70, pp. 1-11, 九州大学大学院人文科学研究院.
- 久野暲 (1973) 『日本語文法研究』 大修館書店.
- 国立国語研究所 (1964) 『分類語彙表』 秀英出版.
- Shibatani, Masayoshi (1975) "Perceptual strategies and the phenomena of particle conversion in Japanese," *Papers from the Parasession on Functionalism*, pp. 469-480, Chicago Linguistic Society.
- 柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』 大修館書店.
- 鈴木泉子 (2015) 「ヲ格を伴う移動動詞について」 江頭浩樹・北原久嗣・中澤和夫・野村忠央・大石正幸・西前明・鈴木泉子 (編) 『より良き代案を絶えず求めて』, pp. 394-403, 開拓社.